

酒々井町郷土研究会々報

第35号

昭和60年1月5日

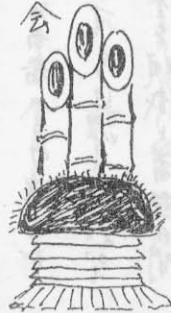
発行

酒々井町郷土研究会

謹賀新年

酒々井町郷土研究会

運営委員 一同



あつて、維持管理は氏子が信仰心を持て行っております。

酒々井には、麻賀多、八坂、朝日、大鷲の四社があり、本佐倉

には、愛宕、諏訪、妙見三社の

四社、上岩橋には、駒形、菊賀、大鷲の三社、上本佐倉は、神明

五良、白山の三社があります。

その折社するところによって氏子が

分けています。酒々井の八坂神社

は、上宿、中宿の鎮守、麻賀多

神社は下宿、朝日神社は、横町

地区の氏子といふように、地区に

分けていふ場合と、上岩橋の駒形

神社は、法華宗系統、菊賀神社は

真言宗系統の氏子と、神佛混合

時代の伝統をそのまま受けついで

いるところもあります。

当町には、神主さんのいる神社は

一社もありません。従って神社の維持

管理は、氏子総代、祭礼世話人

などが選ばれて、年中行事を行つて

おり祭礼などで必要のあるときだけ、神主さんをお頼りにしています。

おびしや

神社の年中行事で、主要なもの

は、おびしやと祭礼であります。

祭礼は、夏まつりと秋まつりが

多いが、おびしやは、正月の行事と

がしております。当町のどの神社

のおびしやも、正月二十日前後

に行われております。むかしは

二十日おびしやといふ二丁目に

決まっていたが、勤め人の多

くなった近年では、二十日前後

の日曜日が多くなっております。

おびしやを漢字で書くと、

いろいろの文字が使われていて

どれか、ほんとうか判らなくなり

ます。毘社、備社、歩射、

備射、奉射、奉謝、奉社など

が使われています。

酒々井の麻賀多神社は、備社、朝日神社は、奉射

神社

神社をいぢばん身近かに感じるのは、正月でありましよう。

とかく平常は、疎遠となり

からな、森の中の神社も正月

となると、メの飾り、門松も

立て、初詣をします。

どこの部落(区)に行つても

村の鎮守が必ずあります。

神社の歴史は古く、遠い

先祖から、有難いもの崇敬

するものとして、代々受け継が

神社とおびしや、相京晴次、酒々井町には、神社が二十四社あります。いずれも、宗教法人として登録されて、村の鎮守として、護持されてきました。

した。むかしは、もつとたくさんありましたが、明治初期の神佛分離令によって、お寺から分離した際に、小さなお宮や祠うは、鎮守に合祠されました。どこの神社の境内にも、小さな祠うや石宮が多くあるのは、このためであります。

神社には、それぞれ氏子が

大鷲神社は毘社、上岩橋の
駒形神社、大鷲神社は奉謝
と書きます。

おびしやはなんのたのにやる

のでしう。広辞苑によると「神社

で春の初めに行う新年の行事。

年占いとあります。また他の

書をみると「騎馬下射を射るの

が「やぶまめ」徒歩で射るのが

歩射、歩射が転じて「びしや」

となる」とあります。

このようなことで、おびしやの

行事は、弓を射て、その

年の豊凶、吉凶を占い、神様

に祈願することにあるようです。

現在でも酒々井の麻賀多神

社、朝日神社のおびしやでは、こ

の神事をいういます。

おびしやの行事は、その神社

部落によつてさまざまに変形

省略されておりますが、一般に

行われているのは、堂の正面に

御神体又はこれに代る「おどろ
権護の収」といわれるものを
まつり、その前に、お盆に白米

を山盛りにし、松竹梅を挿し

紙でつづつた鶴、蕪大根でつづ

た亀を配し、さらに「べんけい」と

いう竹串へ「ごぼう」にんじん

里芋など連ねたもの一村、神酒

その他の供え物をして神前に

飾り、参列者は左右二列に並

び、交互に神前にて神酒を

頂戴し、全員が終つたところで

神事は終りとなります。

あとは当番の準備した酒と

料理で宴会となります。宴なが

ば、新旧の当番のうけ渡しが行

われます。うけ渡しは、おびし

は御神体を羽織と着物の間

に挟んで、背負うような形とな

って受けたものです。現在では

適宜の方法で行われております。

上岩橋の大鷲神社の場合

元はおびしやの神事が終りま

は座敷へ女人の立入りかま

なかつたものです。現在では

そのような禁忌は解かれ、男

より女の者が多くなっています。

おびしやの年当番は数戸づつ

組となり輪番制で、会場もむかし

は当番の家で行いました。が現

在は神社の拝殿で行います。

当番をうけたことは、御神体

を預ったことになり、朔日、十五日

に神社境内の清掃、正月の松

飾りなどが義務づけられて

おります。

おびしやの行事も時勢に応

じて変わりつてありますが、これも

現代風に考えれば、神社を

護持してゆく氏子の智恵で

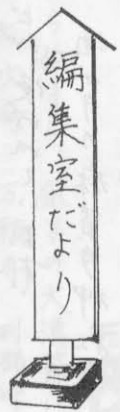
ありまゝです。

今年もおびしやの季節とな

りました。地元のおびしやに参

加して、「つくり」とおびしやの意義

について考えてみましょう。



文化祭に行われた文化協会資

金協賛バザーは多数の御協力に

よつて大成功でした。

純益三四六七〇円となり、御工研

究会を通じての寄贈者は八十二人

・四品の多数となりました。御協

力ありがとうございました。

・一月二十六日の郷土研究会定時

総会には、多数のご出席を願

います。議事終了後文化映画

二本を予定しております。

・銚子方面の見学会は、ABC班

とも申込は満席となり、したが

間際になつて取り消しが続出、結

局三回で八名となり、補助席

を使わず参加者には喜ばれました。

・五所神社では、金巻にお神札付と

満願寺でも金巻に御縁錢を

添り御利益が期待されます。

あそび 遊び (六)

宮本博司

雪合戦・雪だるま・雪うま
よく雪が降った。

とくに節分の頃になると割合に大きな雪が降った。

こんな時は、学校でも先生が先頭にがり雪合戦をやった。

二組に分かれ、雪だんごをつくり投げ合うのである。雪が着物の襟から中に入ると首と背と

まみれて払い除いた。雪だるまは、小さい雪だんごをころころ転し大きくするの

頭と胴の部分をつくる。二つ重ねて顔の部分には、炭で眉目鼻、口をつける。

雪うまは、お盆の上に雪を丸く盛り、顔にあたる部分に南天の葉を耳に、赤い実をつけ目とした。

鬼ごっこ

じゃんけん等で鬼をまめる。鬼にたつた者は、一定時間(五十秒か百秒か)はじきま前にたつておろす目とふくまをその間に他り者は

物陰にかくれる。時が来たら鬼は探してまめ。全員見つけると一回の終了である。この場合

一ツのルールとして鬼にたつた者が背を向けて探している隙に後から「アント」と叩くことにより

もう一度鬼の役をとめる。又、鬼が円陣の真中で目をふくまかむ。周りのものが歌を唄い終ると鬼は目をつぶったまま

一人々々誰であるかを当てる鬼ごっこであった。鬼をまめるときの一ツの方法として、一同右手のこぶしを出して輪をつくり、その輪の中に一人

が人差指でつまみながら次の歌をうたい、歌い終わった時の人が

鬼にたつたこともあった。ズイ、ズイ、すう、すう、ぼし、ごま味増すい、茶づけに追われ、トビシヤン、負けたら、トンドコロ、俵の末まが、米食をな、な、な、お又まんが、呼んども、お又まんが、呼んども、行まこなしよ、キチンなわりて、お茶わんのかいたいだれ

郷土研日誌

月日	内 容	参加者数
10月6日	古文書学習会	8名
10月7日	石佛調査	11名
10月13日	佐原のまつり見学会	40名
10月14日	皇居東苑外見学会	14名
11月10日	古文書学習会	10名
11月11日	新宿御苑明治神宮見学会	14名
11月20日	銚子方面見学会 A班	30名
11月22日	銚子方面見学会 B班	31名
11月27日	銚子方面見学会 C班	26名
12月8日	史談会酒々井町の民俗	6名
12月11日 12日	神奈川県 } 1泊見学会 房州方面	72名
12月15日	運営委員会60年度計画	21名

新入会員紹介

- 434 中台湾子
- 435 杉岡浩子
- 436 林 貞子
- 437 秋山政子
- 438 谷川 勲
- 439 高城おゆみ
- 440 青山真知子
- 441 今泉節子
- 442 大島正子
- 443 松浦健助
- 444 岡かつ子
- 445 松下陽子
- 446 矢沢さく
- 447 柳井美代子
- 448 林 寿子
- 449 岩崎照枝
- 450 平柳ふくえ
- 451 尾沢太一

郷土研行事業案内

60年1月~3月

総会	1月26日(土) 午後1時受付 1時30分開会	・59年度事業報告・会計報告承認 ・60年度事業計画・予算案承認 ・60年度会費受付 1,000	
役員会	1月22日(火) 午後1時30分	総会準備 中央公民館	
文化財 愛護	3月24日(日)	午前9時 上岩橋貝層種穴古墳 草刈清掃 午後1時 伊藤の松並木 植樹・清掃	
県内 見学会	3月 12日(火)A班 15日(金)B班 22日(金)C班	小御門神社 - 助崎須賀神社 - 助崎兼願寺 - 香取神宮 - 山倉大明神 - 山倉第六天 ・会費1,000 中食代共 申込受付1月14日9時以後	
	1月	2月	3月
古文書 学習会	休 三	2日(土) 午後1時30分 中央公民館	2日(土) 午後1時30分 中央公民館
石佛民俗 調査	休 三	3日(日) 午前9時 公民館集合	10日(日) 午前9時 公民館集合
野草の会 名勝探訪	13日(日) 午前8時20分 京成酒々井駅集合 六義園・旧古河庭園・ 葉山と竹の地蔵。雨天中止 自由参加・中食代・乗車賃自弁	9日(土) 午前11時 両利の川と食べの会 会費500円 中央公民館 申込受付1月14日	16日(土) 午後1時 京成酒々井駅集合 佐倉城跡公園周辺 雨天中止

会計報告

鉾子方面見学会	11月20日22日27日	
収入	会費 1,500 × 87人	130,500-
支出	中食料 1,000 × 91人	91,000-
	バス代 8,000 × 3回	24,000-
	五折神社 3,000 × 3	9,000-
	有料道路 500 × 3	1,500-
	計	125,500-
差引残	5,000-	郷土研へ
房州一泊見学会	12月11日12日	
差引残	20,020	郷土研へ
収入	会費 1,300 × 72人	93,600-
	万龍松代	23,400-
	計	95,940-
支出	万龍支払	8,910-
	女中・運転手心付け	25,000-
	早急代	56,000-
	総持寺拝観料	14,000-
	有料道路駐車場	5,200-
	計	93,910-

見学会案内

県内見学会
今回は香取郡地方の社寺めぐりとなりました。
兼願寺以外は数年前訪問しておりませんが、新
会員も多く入り、始めての人達の希望もあり、また
再度見るのも勉強となります。
名勝探訪
東京の六義園と旧古河庭園としました。
いずれも名園中の名園です。多数の参加を希望いた
します。